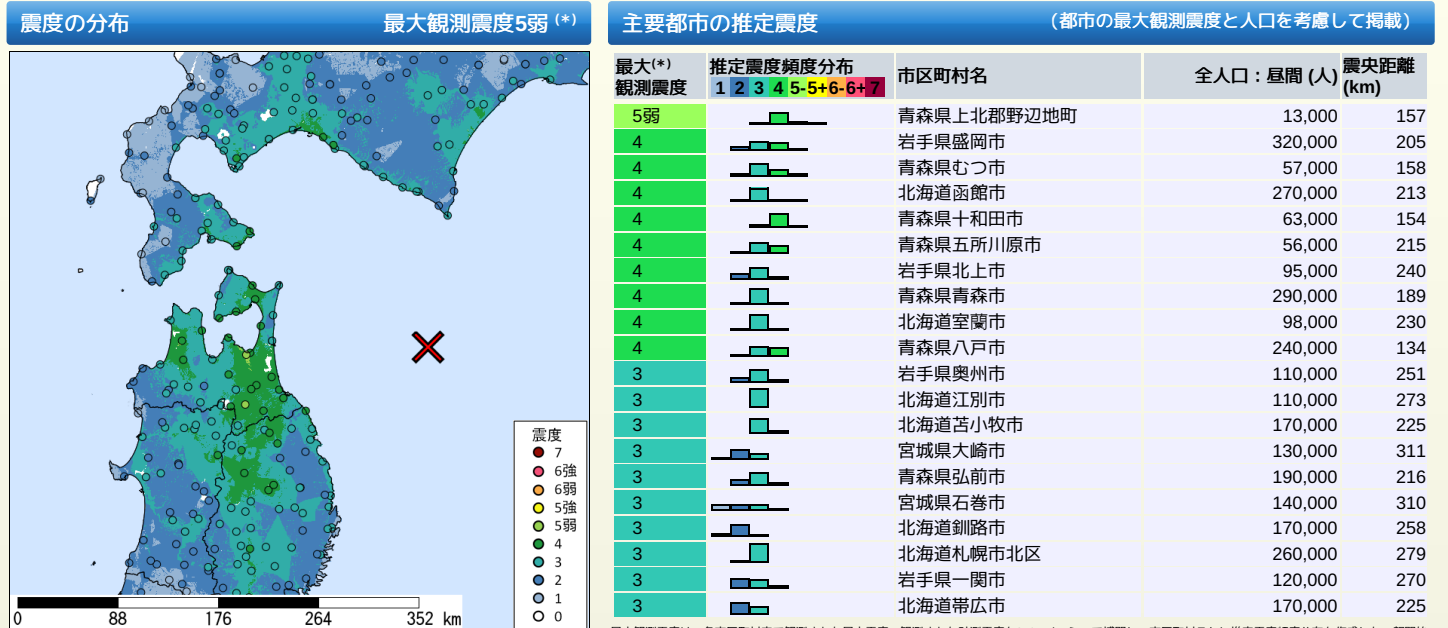


M 6.5, 震源地:青森県東方沖, 深さ約20km, 2025/12/12 11:44頃発生 (気象庁発表)

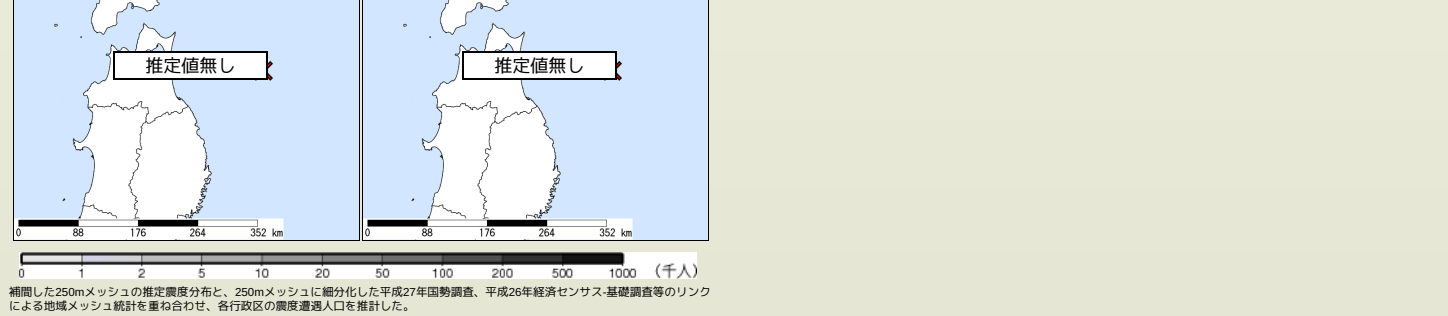


最大観測震度は、各市区町村内で観測された最大震度。観測された計測震度を250mメッシュで補間し、市区町村ごとに推定震度頻度分布を作成した。報開始時刻が9:00-18:59のとき昼間人口、19:00-8:59のとき夜間人口を示し、平成27年国勢調査、平成26年経済センサス-基礎調査等のリンクによる地域メッシュ統計を二桁精度による四捨五入した。震央距離は震央から各市区町村中心部までの距離。

行政区ごとの震度遭遇人口 (各震度階級の揺れに遭遇した人口を考慮して掲載)



全国および震度遭遇人口の多い都道府県と市区町村について掲載。震度遭遇人口が1~999人の場合には1000未満と表示。全国、都道府県の値は、市区町村の値の合計と必ずしも一致しない。



この地域で起こった過去の主な被害地震

発生前	地震名	M	被害
1763	陸奥八戸	7.0	城の崩壊、御朱印蔵の屋根破損。
1856	日高・胆振・渡島・津軽・南部 (安政の八戸沖地震)	7.5	震害は少なかったが、津波が三陸及び北海道の南岸を襲った。南部藩で流死93、潰106、溺死26、八戸藩でも死3など。余震が多かった。1968年十勝沖地震に津波の様子がよく似ており、もう少し海溝寄りの地震かもしれない。
1858	八戸・三戸	7.3	八戸・三戸で土蔵・堤水門・橋など破損。青森・弘前・陸奥・田名部・鯉ヶ沢・秋田で強く感じた。
1901	青森県東方沖	7.2	青森県で死傷18、木造漁家8、秋田・岩手でも被害があった。宮古に波高60cmの津波があった。
1945	青森県東方沖	7.1	青森県で家屋倒壊2、死2。八戸などで微小被害、津波全振幅35cm。
1952	釧路沖 (十勝沖地震)	8.2	北海道南部・東北北部に被害があり、津波が関東地方に及び。波高は北海道で3m前後、三陸沿岸で1~2m。死28、不明5、家屋全壊15、半壊1324、流死91。
1968	青森県東方沖 (十勝沖地震)	7.9	青森を中心に北海道南部・東北地方に被害。死52、傷330、建物全壊673、半壊3004。青森県下で道路損壊も多かった。津波があり、三陸沿岸3~5m、襟裳岬3m、浸水529、船舶流失沈没127。コンクリート造建物の被害が目立った。
1994	三陸沖 (三陸はるか沖地震)	7.6	震度6の八戸を中心に被害、死3、傷788、住家全壊72、半壊429。道路や港湾の被害もあった。弱い津波があった。
2003	釧路沖 (十勝沖地震)	8.0	太平洋プレート上面の逆断層型プレート境界地震で1952年とほぼ同じ場所。死1、不明1、傷849、住家全壊116、半壊368。最大震度6弱(道内9町村)、北海道および本州の太平洋岸に最大4m程度の津波。

出典：国立天文台「理科年表 平成29年」、丸善出版 (2016)、一部表現を割愛

J-SHISから公表している地震ハザード情報

防災科研が公開するJ-SHISでは、ある地点に対し影響を及ぼす全ての地震を考慮し、その地点が大きな地震動に見舞われる危険度、すなわち地震ハザードを評価しています。(2024年地震ハザード評価)

50年間超過確率2%の計測震度分布 再現期間50000年相当の計測震度分布

